



HIROSAKI
UNIVERSITY

弘前大学地域未来創生プロジェクトシンポジウム

芸能

が人を引き付ける力

2016

2/27 土曜日
14:00

弘前大学みちのくホール

演舞あり・入場無料

構内に駐車できない可能性があります。
公共交通機関のご利用をお願いします。

芸能が人をひきつける力

青森県はとても芸事の盛んな地域で、いまでも数多くの芸能が命脈を保っています。しかし、観光化の進んだ「ねぶた」「ねぶた」「えんぶり」などとは違い、大多数の芸能は地区の中でしか普段は見る事ができません。今回は、人文学部社会行動コースで訪れた下北半島と弘前市内の獅子舞の皆様が来て下さることになり、それぞれの土地に根差した芸能の現在と未来について、また芸能が地域の社会にもたらす影響について、実演を交えつつ来場者と存分に「かだつて」いこうと思います。幅広く皆様方のご来駕をお待ちしております。

出場団体プロフィール

矢越神樂 下北郡佐井村矢越地区

地区内でほぼ毎月催される種々の年中行事で演じている。佩刀が特徴的な「雄獅子」1匹を2人がかりで舞う。盆休みの矢越八幡宮例大祭では夜間に山車の運行もあり、とくに雨天時、仏間に上がって演じる門付けには独特の宗教観が反映される。

佐井神樂 下北郡佐井村古佐井地区

320余年の伝統を誇り、2人立ち1匹で佩刀はせず「雌獅子」と呼ばれる。9月の箭根森八幡宮例大祭では隣の大佐井との山車合同運行にあわせ、両地区を門付けして回る。近年では毎秋、小中学校の子どもたち有志に「打ち習い」として教えている。

松森町津軽獅子舞 弘前市松森町

弘前城下町割り完成の時に京都近衛家より伝来し、4代藩主信政が松森町内の猫右衛門に命じて再興させた。現在は町内の門付けのほか、和徳稻荷神社と品川町胸肩神社で奉納する。道化役のオカシコに1人立ち5匹の獅子という異色の編成。

プログラム

第一部 各組演舞 (14:00~)

第二部 フリートーク「芸能がひとを引きつける力」 (~17:00)